



ごあいさつ

令和2年5月の定時総会におきまして、第6代会長として就任いたしました。

平素より、当協会に対しまして格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

当協会は、昭和48年に「社団法人熊本県道路舗装協会」として発足して以来、社団法人熊本県建設業協会との大同合併を経て、平成26年4月1日に「一般社団法人熊本県道路舗装協会」として新たに法人化し、現在に至っております。その間一貫して、舗装専門業者団体として、舗装技術の研鑽、品質の向上や安全施工への研究など自主努力を図って参りました。

当協会の会員は、舗装専門の会員が多数ですが、半分近くは中小・零細の企業であります。少しでも会員のメリットにつながる施策を講じてもらえるよう、関係機関に要望活動を行うなどし、会員の底上げを図っていきたくと思っています。

また、建設産業全般で、若手人材の確保が課題となっておりますが、舗装業のPR活動や現場見学などを通じて、入職促進に努めて参りたいと考えています。

道路は、全ての経済活動の基盤であり、それらを維持・保全し支えていく舗装専門業が、長く継続していけるよう全力で取り組んで参る覚悟でございます。

皆様のご理解とご協力、ご支援をよろしく申し上げます。



会長 岩本 敏則

令和2年7月豪雨災害

令和2年7月3日未明から4日にかけて、線状降水帯が長時間停滞したことにより降り続いた大雨によって、県南9地点にて降水量が観測史上1位を記録。さらに、7月6日から8日未明にかけて断続的に降った非常に激しい雨により、県北地域でも川の増水や土砂崩れが発生しました。



特に球磨川流域では多くの犠牲者が出たほか、住宅や公共施設等に甚大な被害が発生しました。会員の中にも八代・球磨・芦北に拠点を置く企業があり、社屋や工事現場が大きな被害を受けました。自社の復旧もしなければなりません。地域住民の皆様の1日も早い生活再建のため、土砂撤去や更なる土砂の流出を防ぐための大型土のうの設置、仮設道路の施工等インフラの復旧作業に尽力しております。本復旧に至るまでには時間を要しますが、未だ復旧作業の続く各地域の

1日でも早い復興と、生活の立て直しを心よりお祈り申し上げますとともに、舗装等の復旧作業など、できる限りの協力したいと考えております。

【写真提供】

(株)小管建設・(株)高野組・丸昭建設(株)



仮設道路



仮設道路



仮設工 (大型土のう設置)



アスファルト舗装現場実習 (SPH)

～体験して学ぶ・体験型学習 アスファルト舗装の維持修繕！～



令和2年10月13日熊本工業高校敷地内において、熊本工業土木科の1・2年生を対象とした当協会主催による「アスファルト舗装現場実習」を実施しました。熊本工業高校は、文部科学省が認定する「平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の認定を受けており、発災後のインフラ復旧に関して、ハード面・ソフト面の両面から必要な技術・知識を習得した人材の育成を目指しています。その一環として、今年度は「産学官協同により災害対応型エンジニアを育成する」をテーマに、代表的なアスファルト舗装工法、景観性を求められる場所に実施されるカラー塗布舗装、段差補修・摺付補修工法（ロメンパッチ）等を体験してもらいました。

指導係の担当委員が、体験する作業内容や実際に機械に乗車し操作してもらうことを説明すると「お～！」「やったー！」という歓声が生徒さん達からあがりました。

また、今回の現場実習に先立ち「舗装工事のインフラ整備」をテーマに、7月下旬に座学を実施しました。

昨年に引き続き、今年もまたSPHの取り組みに道路舗装協会として貢献できたことを嬉しく思います。未来を担う高校生たちが「熊本の未来は自分たちの手で…」そんな熱い気持ちで、舗装業界への道を選択肢のひとつとして考えてもらえるきっかけになれば嬉しです。



【着工前】



【竣工】



【着工前】



【竣工】



▲ カラー塗布舗装体験



▲ 敷き均しを実際に体験



▲ 段差補修・摺付補修工法 (ロメンパッチ)



▲ ローラーで転圧を体験



▲ バックホウ体験



▲ 感謝状授与

— 参加者状況 —

◆ 学 生	…… 2年生 40名 1年生 39名 計 79名
◆ 他校教員	…… 天草工業高校 小川工業高校 玉名工業高校
◆ 来 賓	…… 熊本県教育庁より 高校教育課 上淵 様 熊本県土木部監理課より 木山課長をはじめ3名様

— 舗装協会関係 —
作業員20名 役員・委員13名 事務局2名
— 協賛 —
ニチレキ株式会社 熊本県アスファルト合材協会 株式会社仙台銘板